

【温暖化対策の推進】 4. ストップ温暖化プロジェクト

4-1 かさまの森林(もり)推進

〈ねらい〉 本市に所在する森林を対象に、市民・事業者と協働により植林や間伐等の森林整備を行うことで、森林の伐採と再生のサイクルを促進し、二酸化炭素吸収量の多い森林を形成します。また、森林整備を通して環境教育・自然体験を行い、市の自然環境に対する保全意識の醸成を図ります。

〈実施事業〉 かさまの森林(もり)を元気にしよう！

取組指標	現状(H27)	中期(R2)	長期(R7)	令和2年度
森林・里山保全活動への参加人数	1,045人	1,050人	1,050人	822人

実施内容

森林吸収源としての機能をはじめ、水源かん養機能や国土保全機能など多様な公益的機能を担う森林の役割や重要性について周知を図り、地場産材の積極的な利用や里山保全活動に積極的に参加・協力するよう呼びかけます。また、里山づくりや森づくりに努めます。

●カスミ主催の植樹祭(会場：愛宕山)は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となりました。

●緑の少年団活動(市内4団体)822人

団体活動を支援し、森林・林業体験キャンプ、里山体験学習及び花壇づくり等を行いました。

(稲田小学校わがくに緑の少年団234人、友部緑の少年団30人、北川根小学校緑の少年団269名、岩間第一小学校あたご緑の少年団289人)

〈評価・課題〉

森林資源の活用促進として、緑の少年団活動等を支援し、森林の有する公益的機能の理解促進と自然環境保護に対する意識の高揚を図りました。

一方、森林機能維持のために必要な伐採等の維持管理が、地権者の実情により計画的に進まない状況があります。

第1章の関連する施策:森林の育成・活用(P4)

4-2 環境にやさしい交通推進

〈ねらい〉 講習会や学校の授業において交通利用の在り方を見直したり、公共交通利用や徒歩、自転車による移動がしやすい環境を整備することで、環境負荷が小さい交通利用を推進し、市内における運輸・移動による二酸化炭素や大気汚染物質の排出量の低減を図ります。

〈実施事業〉 公共交通や自転車を活用しよう！

取組指標	現状(H29)	中期(R2)	長期(R7)	令和2年度
ノーマイカーウィーク 実施回数	2回	2回	2回	1回

実施内容

過剰なマイカー利用がもたらす地球温暖化問題についての意識の高揚を図るため、ノーマイカーウィークを実施します。通勤、通学、買物等で、マイカーの利用を控え、鉄道・バスなどの公共交通や自転車を利用するなど、環境にやさしい移動の取り組みを促進します。

●新型コロナウイルス感染症の影響により、6月は中止。

●12月20日（日）～12月26日（土）

- ・参加者延べ人数 4,942人
うち実施延べ人数 987人

●10月1日（木）～12月23日（水）

- ・シェアサイクル実証実験
市内の二次交通の補完、自動車交通の抑制、回遊性向上を図る新たなモビリティの一つとして、スマートフォンから自転車の利用・返却ができるシェアサイクルシステムの導入を検討するため実証実験を行いました。
利用件数 193件

●9月19日（土）～12月6日（日）

- ・グリーンスローモビリティ実証実験
市民の日常生活における利用及び観光客の周遊性を向上する新たなモビリティの一つとしてグリーンスローモビリティ（低速電動カート）の導入を検討するため、「まちなか型（笠間地区）」および「自然・里山型（岩間地区）」で小型電気自動車により実証実験を行いました。
利用件数 387件

<評価・課題>

ノーマイカーウィーク期間中、ノーマイカーを実践できたのは参加者の2割程度の結果となりました。公共交通や自転車での通勤が困難なマイカー通勤者には、同じ方面の方との相乗り通勤など、できることから実践するよう促進していきます。

シェアサイクルシステムは、無人のサイクルポートでスマートフォンで利用できるため使い勝手が良く、電動アシスト自転車のため市内周遊が促進できる半面、スマートフォンからの登録がわずらわしいなどの意見も多く、簡易に操作できるアプリの構築などの課題解決に向けてシステム事業者との研究を進めながら導入を検討していきます。

グリーンスローモビリティは、景色を楽しめるなど乗り物としての魅力は好評だった一方、無料や低料金を求める意見が多いため、運営形態などの課題解決に向けて研究を進めていきます。

第1章の関連する施策:スマートムーブ(自動車利用の抑制)(P24), 広域連携による取組の推進(P28)

4-3 市民の主体的な温暖化対策促進

〈ねらい〉 省エネの取組や電力消費量の「見える化」など、家庭において日常生活のなかで実践できる地球温暖化対策について紹介するとともに、参加型の取り組みを実践したり、インセンティブ（意欲の刺激）を付加したりすることにより、活動の促進を図ります。

〈実施事業〉 CO2 削減エコライフチャレンジに参加しよう！

取組指標	現状(H29)	中期(R2)	長期(R7)	令和2年度
エコチャレンジ 市内参加人数	354人	500人	700人	603人

実施内容

家庭での節電により、どれだけ二酸化炭素（CO2）を減らすことができるかを競う取組を県央地域9市町村で同時に実施します。

- 家庭における電気の使用量の削減に努めるため、令和2年12月の家庭の電気使用量と令和元年同月とを比較し、昨年度比で電気量を削減する取り組みを意識的に行うため実施しました。

取組期間：11月から12月の2か月間

〈評価・課題〉

節電など、できることから始めることが、地球温暖化防止に繋がることから、学校などを通じて、各家庭の参加を促していますが、一般の参加者が少なく、更なる周知が必要となります。

気軽にできる地球温暖化防止対策の一つとして、節電に取り組む家庭が増加するよう促進していきます。

第1章の関連する施策：家庭や学校における地球温暖化対策の普及促進(P24)、広域連携による取組の推進(P28)

【環境教育・学習・活動の促進】

5. 環境学習・環境保全活動促進プロジェクト

5-1 主体的な環境教育促進

〈ねらい〉 子ども達が自ら環境保全に関する課題を発見し、対策を検討し、自ら取り組みを行う主体的な環境教育の実施を通して、身近な環境に関心を持ち問題意識を持つとともに主体性を養う。

〈実施事業〉 涸沼川・巴川を探検しよう！

取組指標	現状(H27)	中期(R2)	長期(R7)	令和2年度
参加者数	27人	35人	40人	8人

実施内容

クリーンアップひぬまネットワークや霞ヶ浦問題協議会等で開催する各探検隊に参加して河川の環境問題について勉強します。

① 涸沼川探検隊

8月9日(木)小学生8人参加

涸沼川をもっと身近に感じ、水質浄化意識の高揚を図ることを目的に「涸沼川探検隊」を実施しました。自然公園指導員の矢野先生の指導のもと水生生物の調査や簡易水質検査(パックテスト)を行いました。



② 巴川探検隊

新型コロナウイルス感染症の影響により中止としました。

〈評価・課題〉

涸沼川探検隊は、新型コロナウイルス感染症の対策として、募集人数を制限して実施し、河川の水質や動植物について学び水質浄化意識の高揚を図りました。

巴川探検隊については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止としました。

毎年、夏休み期間中に実施している野外での活動のため、熱中症など子ども達の体調管理に留意するとともに、新型コロナウイルス感染症の対策を取りながら、今後も、子ども達が主体的に参加できるような体験学習を実施します。

第1章の関連する施策:水辺の保全意識の高揚(P2)、学校等における環境学習の推進(P27)、体験型学習機会の充実(P27)

5-2 市民環境学習促進

〈ねらい〉 子どもから大人までを対象に、身近な環境から地球規模の環境問題まで幅広く環境について、学び体験する機会を提供するとともに、環境に対して関心をもち、主体的に環境保全活動に取り組む意識の醸成を図ります。

〈実施事業〉 環境寺子屋に行こう！

取組指標	現状(H27)	中期(R2)	長期(R7)	令和2年度
開催回数	—	4回	6回	4回

実施内容

地域の環境資源を活用し、講師による市民参加型の「環境寺子屋」を開催します。

①「地球温暖化と天気のお話」

8月30日（日） 参加者11名

会場：笠間公民館 大会議室

講師：いばらきエコの会

岸 倫男さん ・ 小島 幸子さん ・ 松本 洋司朗さん

小学生とその保護者対象に、クイズを交えながら地球温暖化講座を実施しました。その他、おもしろ実験（雲をつくる）を行いました。



②「環境教育人形劇」

10月28日（水） 2回上演

参加者：笠間市立友部第二小学校2年生 90名

会場：笠間市立友部第二小学校 体育館

演者：人形劇団京芸

作品：エコシアターあおぞらげきじょう（3本立・約45分）

～リサイクルパペットシアター・すすめセツゲンボ！・エコうさぎとエコかめ～

11月21日（土） 2回上演

参加者：82人（午前の部47人，午後の部35人）

会場：福ちゃんの森公園 多目的室

演者：人形劇団京芸

作品：エコシアターあおぞらげきじょう（3本立・約45分）

～リサイクル・ペットシター・すすめセツゴホ！・エコうさぎとエコかめ～

人形たちのかわいらしい動きや軽快な音楽で，児童たちは楽しみながら，節電，食品ロスやプラスチックごみ問題について学ぶことができました。



③「笠間市こども理科自由研究成果発表会」

11月8日（日）

参加者：発表者17名，来場者82名

会場：笠間市立友部小学校体育館

市民団体（かさま環境を考える会，ごみを考える会）が中心となり，子ども達の「主体的な取組意欲」や「伝える力」を育むことを目的として，夏休み理科自由研究成果発表会を開催しました。

9作品17名の児童が発表しました。子ども達が主役となり楽しく開催することができました。



<評価・課題>

子どもから大人までを対象に，環境について学ぶ機会や発表する機会を提供することができました。環境寺子屋を開催し，主体的に環境保全活動に取り組む意識の醸成を図ることができました。

第1章の関連する施策：地球温暖化に対する理解促進(P24)，市民・事業者への環境学習の促進(P27)